

社 報

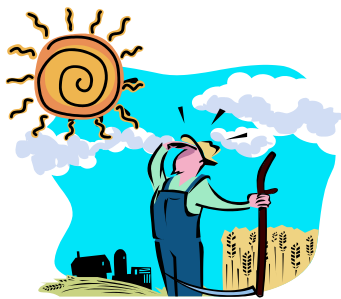


初心忘れるべからず

FRPパネルが入荷

当社が開発し、中国で製造しておりました、FRP型枠パネル、600x600が1,000枚倉庫に入荷いたしました。

続いて、入隅・出隅・3面出隅・3面入隅なども製作中です。補助パネルとして、90x600、120x600、150x600のパネルも、製作完了間近です。当社発のシステム型枠として、実用試験を繰り返して、完成を目指していきます。



まだまだ、暑い残暑が続きます。
くれぐれもお体を大切に！

フォービルが誕生してから、はや10年の年月が経ちました。企業としても、ようやく地に足のついた活動が出来てきているようにも思います。

そこで、「初心忘れるべからず」。このことわざは、耳慣れた言葉と思います。一般的な意味としては、「物事に慣れてくると、慢心してしまいがちであるが、はじめたときの新鮮で謙虚な気持ち、志を忘れてはいけない」とされています。私も、そうした意味で使っておりますが、今回社報に掲載するにあたり、ネットで検索したところ、もっと深い意味があることを知りました。

このことわざは、室町時代に能を大成させて、「世阿弥」の書「花鏡」に結びの言葉として書かれているそうです。「しかれば当流に万能一徳の一句あり。初心忘るべからず。この句、三ヶ条の口伝あり。是非とも初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。この三、よくよく口伝すべし」ここで言う「初心」とは、「始めた頃

の志」ではなく、「芸の未熟さ」、つまり、「初心者頃の頃のみっともなさ」を言うのだそうです。

人生の折にふれて、「初心者頃の頃のみじめな状態には戻りたくない」と思うことで、さらに精進できると、「世阿弥」は説いています。

「是非とも初心」「時々の初心」「老後の初心」と初心を3つの初心に分けて、人生の節目節目に「初心」があり、そのみっともなさを知ること、さらに人生(仕事)を昇華させることが大切であり、この句を、万能一徳の句としています。

今も昔も、当代の一流と言われる人は名言を残しています。

私達が、当代一流の会社となれるかどうかはわかりませんが、そこを目指して精進することは、大切な心意気であると思います。

今の状態を、「初心者のようにみじめな状態」と覚え、数年先には、「あの頃はまだまだやったなあ」と語れようになりたいものです。

「初心忘れるべからず」

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

急施工現場の消化に感謝です

シャリエ松屋町・帝塚山マンション・京都BALアネックスと、急施工現場が連続して発生しています。現場の皆様方には、暑い中を休日出勤の連続と。本当にしんどい思いをしていただき、心から感謝を申し上げます。

おかげ様で、お得意先から心配を

いただいております工期についても、まだまだ厳しい状況ではありますが、徐々に目途がきつ々あるところですよ。

忙しい現場ほど、事故の発生確率は高くなると言われています。大変な状況ですが、くれぐれも事故災害には気をつけてください。(拝)

2014年 安全成績

■現場災害 H26.1.1-H26.9.7	
休業災害	----- 2
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■交通災害 H26.1.1-H26.9.7	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0